

生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会における論点と方向性のイメージ

九州圏土構造の現状認識

傾斜地や火山が多いうえ、特殊土壌地帯が分布し、災害の多い圏土であることに加え、気候変動による海面上昇や集中豪雨の不安定化が懸念されており、今後、甚大な水害や土砂災害等の被害が多発する傾向にある。

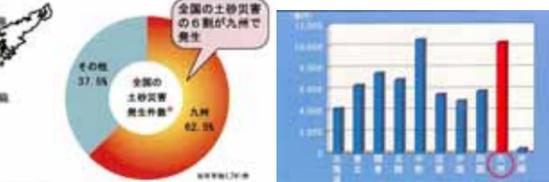
平成15年 御笠川氾濫(福岡県)



平成18年 川内川被災(鹿児島県)



全国の土砂災害の6割！ 水害被害額も大きい！

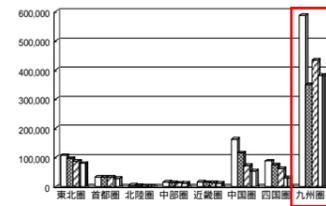


温暖(平均気温20℃)な気候のもと、世界有数の阿蘇カルデラ、世界遺産の屋久島などを4つの国立公園(全国28)、9つの国定公園(全国55)に有し、豊富な植生の自然公園が圏土全体に広がる。

九州各地の国立・国定公園



全国の離島人口の5割！



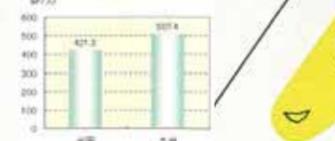
有人離島数は全国の4割！



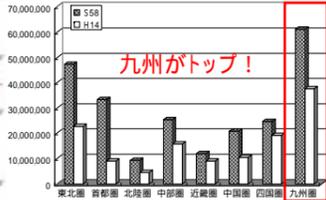
日本の原風景ともいえる棚田・里山及び地域資産(石橋等)が先代から守られている

広大な広葉樹林地帯！

1人当たり自然公園面積は広い！



圏域別漁獲金額推移



9つの論点

今回、ご議論いただく論点

- (1) 災害に強く暮らしやすい九州圏の形成
 - 減災の視点を重視した災害対策の推進
 - 1 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進
 - 2 減災の観点を重視したソフト対策の推進
 - 日々の暮らしを支える安全・安心の確保
 - 3 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成
 - 4 中山間地域、離島等におけるサービスの確保
 - 5 安全・安心な食を支える九州圏の継承
- (2) 世界に誇れる美しい九州圏の形成と継承
 - 循環と共生を重視した美しい九州圏の形成
 - 6 多様で美しい調和のとれた九州圏の保全と継承
 - 7 国際的な環境問題への取り組み
 - 美しい九州を支える水循環系の形成
 - 8 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築
 - 9 海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全

課題に対する方向性(案)

今回の論点に関連する方向性

- 社会資本整備の拡充
- リダンダンシーの確保
- 【効果的かつ効率的な情報提供システム構築】
 - ハザードマップ等情報ツールの整備
 - 避難経路・避難地の確保等の災害予防システムの充実
 - 被災時における様々な主体向けの被災情報共有システムの構築
 - 情報通信技術を活用した施設管理の高度化・効率化
- 【啓発・啓蒙】
 - 環境教育の普及・サポート体制の確立
- 【担い手の確保】
 - 中山間地域等の高齢化進行地域における安全確保の担い手確保
 - 美しい森林・農漁村を維持する担い手の育成
- 備蓄体制の拡充
- 【相互支援体制の拡充】
 - 複数の主体による広域的かつ相互の防災・危機管理体制確立
 - 地域コミュニティを核とした地域防災力の向上
- 【調査研究】
 - 災害の発生予測・情報伝達といった分野に係る調査・研究
- 【地域資源の保全】
 - 水循環系の保全
 - 美しい圏土の保全の観点からの農林水産業の保全・育成
 - 貴重な自然環境を守るための取組推進
- 【圏域内外における適切な物質循環システム】
 - 東アジアを視野に入れた広域的な物質循環システム
 - 圏域内離島の物質循環系のサポート
- 国際的連携・調整
- 新資源開発